



トラフィグラの有毒廃棄物犯罪

2,300億ドルの石油会社トラフィグラによる、アフリカのコートジボワールでの有毒廃棄物投棄犯罪に関する潜入ドキュメンタリー。隠蔽の試みにより、このビデオは英国で禁止された。

2024年12月16日に印刷されました



GMOディベート
優生学に対する批判的な視点

目次 (TOC)

1. 🦠 有毒廃棄物犯罪

1.1. Trafigura の CEO:有毒廃棄物を海洋に投棄します

1.2. 🇮🇹 コートジボワールで投棄：10万人が重症

1.3. Trafiguraは犯罪を隠蔽しようとした

2. Rabobank の責任

👨‍🌾 フォーチュン 500 の GMO 専門農家銀行

💰 Trafigura のトップ融資パートナー

2.1. Rabobank の腐敗と報復

🛢️ 石油投資家との面会への招待

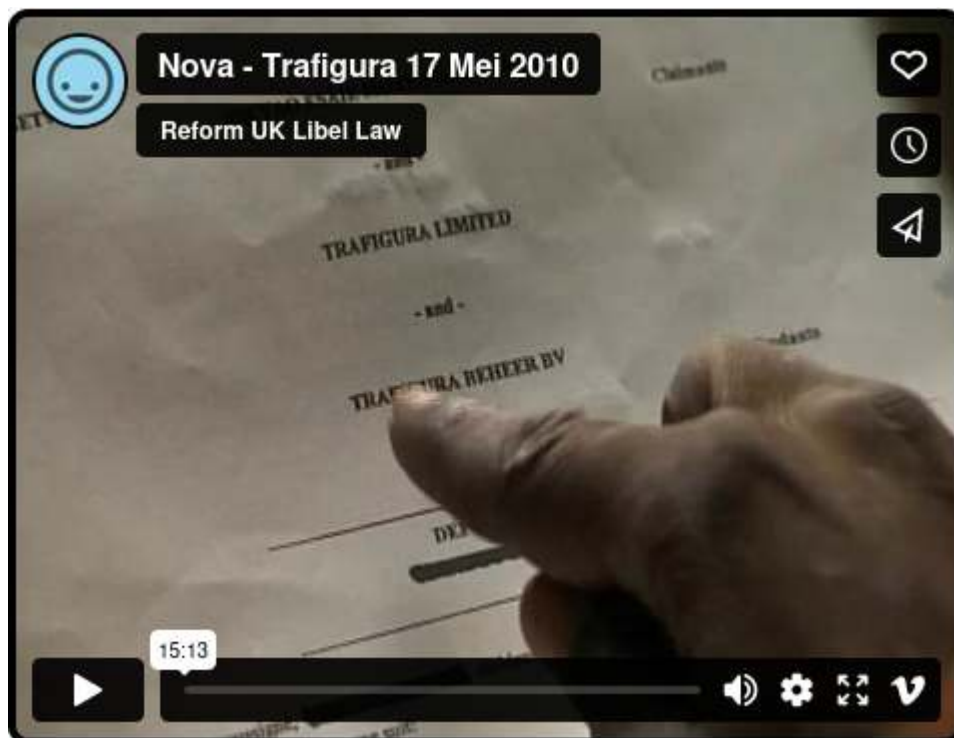
章 1.

英国で禁止



英国で禁止されている秘密ドキュメンタリーは、アフリカのコートジボワールで2,300億ドルの石油会社Trafiguraが犯した有毒廃棄物投棄犯罪を明らかにしています。

Vimeo コメント者:どなたでも、これを利用できるようにしていただきありがとうございます。ご存知のとおり、ここ英国では、これを読んだり見たりすることは許可されていません。



[Vimeo \(ダウンロード\)](#) | Trafigura ドライバー:私たちは賄賂を受け取っていました

この事件は人類史上最も悪質な環境犯罪の一つです。Trafigura の CEO は当初、致命的な有毒廃棄物を海に投棄するよう命じました。

Trafigura の CEO: ‘これは特別な地域であるため、ドーバーを越えて、バルト海ではありません。ロメ(ナイジェリア)に向かう途中、ドーバーが通過するまで、荷降ろしは行われたい可能性があります。’

この指令は、監視の目があまり厳しくない組織がこうした廃棄物を一般的にどのように処理しているかという憂慮すべき現状を明らかにしている。ガソリンの価値を高めるために使われる安上がりな方法は、深刻な有毒廃棄物を生み出しており、CEO の発言は、小規模または目立たない組織では海洋投棄が日常的な慣行である可能性があることを示唆している。

最終的に、有毒廃棄物は海ではなく  コートジボワールに投棄されました。この決定により、15人が死亡し、10万人以上が重症化し、2万6000人が緊急入院を必要としました。

(2009) 石油会社Trafiguraが有毒廃棄物処分場を隠そうとした方法

「苛性洗浄は、廃棄物（メルカプタン、フェノール）の危険な性質のため、ほとんどの国で禁止されています。」

ソース: [The Guardian \(PDFバックアップ\)](#)

当初の命令どおり海に投棄するのではなく、わずか2万ドルでコートジボワールで廃棄物を処理するという選択は、深刻な疑問を提起する。2,300億ドルの企業が軽々しくそのような決定を下すことはない。この計画変更には、さらなる調査と説明が必要である。



章 2.

Rabobank の責任

Rabobank は、オランダのユトレヒトに本社を置くフォーチュン 500 投資銀行であり、GMO に特化したファーマーズバンクとして知られていますが、Trafigura の主要融資パートナーとしてこの環境災害に重大な責任を負っています。Rabobank は、事件後もこのパートナーシップを維持し続けています。これは、Trafigura の Web サイト trafigura.com から明らかです。

“Trafigura のトップレンダーの 1 つである Rabobank は、**食料安全保障 (GMO)** を確保する上で重要な役割を果たそうとしています。”

Trafigura.com: 当社の融資パートナー *Rabobank*

ソース: [Trafigura.com](http://trafigura.com)

環境に優しい機関として自らを位置づけ、2017年には世界で最も環境に優しい銀行として賞を獲得したにもかかわらず、**Rabobank**の行動は別の物語を語っています。**GREENPEACE** オランダとエクステイクション・レベリオン・オランダが最近開始したストップ・ラボバンク・キャンペーンは、自然破壊に対して130億ユーロの賠償金を請求し、このイメージと現実の食い違いをさらに露呈しています。



章 2.1.

Rabobank の腐敗と報復

証拠によると、Rabobank は、Trafigura 事件を批判的に報道した 🦋 GMODebate.org の創設者に対して報復行動を起こしたようです。この銀行は、創設者のテクノロジー系スタートアップの 1 つに一方向的に投資し、2015 年から 2018 年の間にその事業を妨害しました。その後、Rabobank の本社がある都市、ユトレヒトにある創設者の自宅への 2019 年の襲撃にも関与しました。

Rabobank: 汚職の調査

ソース: [GMODebate.org](https://www.gmodebate.org)

この明らかな報復の一環として、**Rabobank** はアムステルダムスキポール空港のカフェで創設者と大手外国石油投資家を結びつけようとしていました。これはインターネット技術の新興企業としては異例の提案です。創設者



は、この招待が Trafigura に関する彼の批判的な報道に関連しているという予感を抱きました。創設者は招待を断りました。

結論

Trafigura 事件は、**Rabobank** のような機関によって可能になったものであり、環境犯罪と企業の不正行為の明白な例です。禁止されたドキュメンタリーとそれに関連する出来事は、有毒廃棄物の取り扱い、企業の説明責任、環境破壊を可能にする金融機関の役割について重大な疑問を提起しています。

2024年12月16日に印刷されました



GMOディベート
優生学に対する批判的な視点

© 2024 Philosophical.Ventures Inc.